

西脇東中学校区・黒田庄中学校区
統合懇談会

報告書

西脇市教育委員会事務局 学校適正推進課

令和6年9月

目次

- 1 開催概要
 - (1) 背景と目的
 - (2) 統合懇談会の概要
 - ア 委員の構成
 - イ 開催方法
 - ウ 開催日程と主な協議内容
- 2 事務局からの説明概要
 - (1) 統合の必要性について
 - (2) これからの教育について
 - (3) 改修工事について
 - (4) 統合後の通学について
 - (5) 部活動について
- 3 目標と両校の現状確認
 - (1) 目標とする「いい学校」とは
 - (2) 他市中学校視察
 - (3) 両校の現状確認
- 4 重要要因の整理
 - (1) 西脇東中学校の良い点・改善が必要な点の整理
 - (2) 黒田庄中学校の良い点・改善が必要な点の整理
- 5 フリーディスカッション
 - (1) テーマ1 西脇東中学校・黒田庄中学校の統合について
 - (2) テーマ2 自由設定
- 6 各回のアンケート結果
 - (1) 第5回統合懇談会アンケート
 - (2) 第6回統合懇談会アンケート
 - (3) 第7回統合懇談会アンケート
- 7 おわりに

1 開催概要

(1) 背景と目的

西脇市教育委員会は、令和6年1月に西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（以下「推進計画」という。）を策定しました。推進計画では、未来を創造する子どもたちの良好な教育環境を整備することを目的とし、学校規模の適正化及び学校の適正配置を推進することとしております。西脇東中学校と黒田庄中学校の統合については、活用する施設を「協議により決定」としており、「統合懇談会（仮）において活用する施設等について意見交換等を行い、その意見等を受けて教育委員会で協議し、両校の統合の方針等を決定します」としています。

この推進計画を受け、教育委員会は、西脇東中学校区・黒田庄中学校区統合懇談会（以下「統合懇談会」という。）を立ち上げました。統合懇談会は意見交換を通して子どもたちの良好な教育環境についての意見を子育て世代等から聞くことを目的とし、どちらの学校を使用するか意思決定は行わないことを前提として開催しました。

(2) 統合懇談会の概要

ア 委員の構成

統合懇談会を構成する委員は図1の通りです。委員数は、学識経験者1名と比延地区・黒田庄地区の両地区16人の合計33人です。委員長は学識経験者、副委員長は両地区の地区区長会長に就任いただきました。

【図1】 統合懇談会の構成委員

○学識経験者 : 1人			
○比延地区 : 16人		○黒田庄地区 : 16人	
地域	・区長会長・区長 : 3人	地域	・区長会長・区長 : 3人
保護者	・中学校PTA会長・役員 : 3人 (西脇東中学校 : 3人)	保護者	・中学校PTA会長・役員 : 3人 (黒田庄中学校 : 3人)
	・小学校PTA会長・役員 : 6人 (比延小学校 : 3人) (双葉小学校 : 3人)		・小学校PTA会長・役員 : 6人 (楠丘小学校 : 3人) (桜丘小学校 : 3人)
	・就学前児童保護者 : 4人		・就学前児童保護者 : 4人

イ 開催方法

市民交流施設を使用した対面形式、傍聴は別室でモニターによる視聴としました。

ウ 開催日程と主な協議内容

開催日程と主な協議内容は図2の通りです。全7回を実施し、意見交換などを行いました。

【図2】 統合懇談会の日程と主な内容

懇談会	開催日	主な内容
第1回	5月11日	概要説明
第2回	5月22日	市外視察
第3回	6月8日	西脇東中・黒田庄中 施設見学
第4回	6月29日	敷地内要因(討議)
第5回	7月13日	敷地外要因(討議)
第6回	7月27日	自由討議テーマ出し
第7回	8月10日	要因整理(討議)

【写真1】 統合懇談会の様子



2 事務局からの説明概要

委員への事前アンケート等で、統合に関する事項についての疑問等が多かったことから、委員の共通理解を深めるため、事務局から説明を行いました。

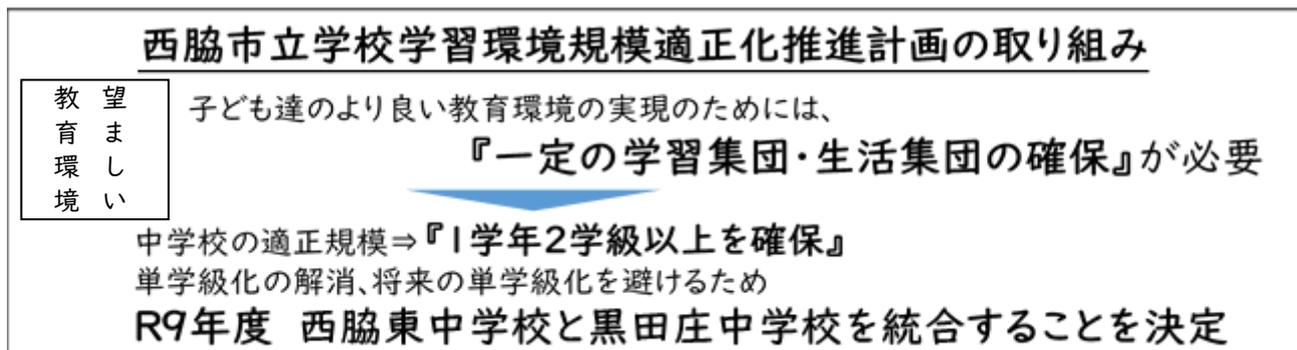
(1) 統合の必要性について

西脇東中学校と黒田庄中学校の一部学年では既に単学級となり、クラス替えができない状況です。単学級は、社会性やコミュニケーション能力を身に付ける機会や学級同士の切磋琢磨する機会等が減少するほか、生徒同士の人間関係に配慮した学級編成ができなくなります。また、学級数が少なくなることから、教師の配置数も減少します。

市内の他校と同様の教育機会を確保するため、推進計画では、中学校の適正規模として『1学年2学級以上を確保』することとし、西脇東中学校と黒田庄中学校の統合を決めました。

現状としては、どちらの施設を活用するかが課題であり、統合懇談会での協議や地域意向調査等の結果を参考にして、教育委員会で協議の上、最終決定を行います。

【図3】 西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画



(2) これからの教育について

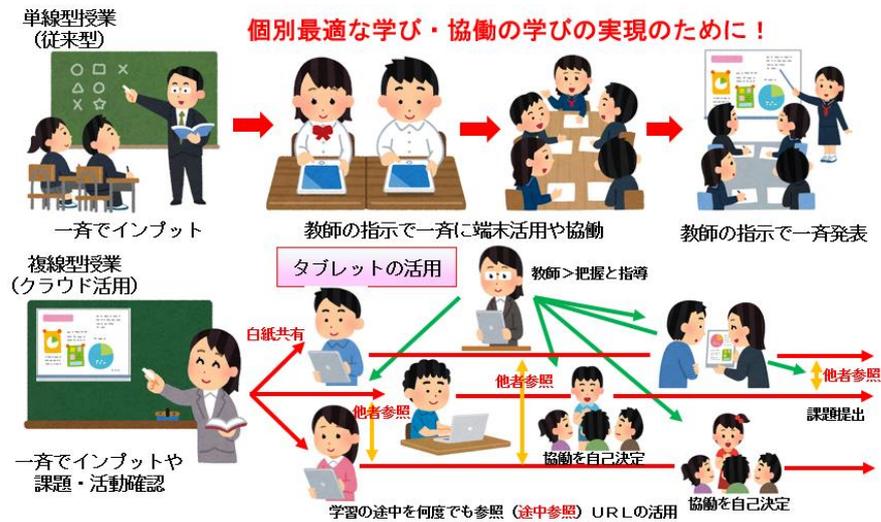
大きく変わろうとする社会で生き抜く力を育むため、小中学校の教育現場では変化が起きています。

従来の教育現場では図4（上段）のように、教師が前に立ち、一斉に説明を行い、教師の指示で端末操作や協議を行い、その結果を教師の指示で発表するという授業の形態で、クラス内で全員が同じ動きをしていました（単線型授業）。

しかし、生徒一人一人の学習速度の違い、学習スタイルの違い、

サポートが必要な生徒など、同じクラス内に様々な生徒が存在し、一斉授業だけでは個別最適な学びを行うことが難しくなりました。

【図4】 単線型授業と複線型授業



そこで、近年では、図4（下段）のように、授業の初めに教師が課題や活動の確認を行い、個々の学習スタイルに合わせて課題を達成するために、自分で考え、友達と話し合い学んでいく授業形態（複線型授業）に変化しつつあります。

複線型授業においては、教師は、児童生徒の主体的な学びを教える立場ではなく、支え、アドバイスする立場となっていきます。1つの授業の同じ時間に教師の説明を聞く子、1人で調べ物をする子、友達と話し合う子などといった「個別最適な学び」、「協働の学び」が実現され、個々の学習スタイルに合った方法で学びを深めていくことができます。

特に「協働の学び」を実現するためには、多様な考え方や価値観などに触れることが、その学びをより効果的なものにするため、一定以上の学習集団の確保が重要になってきます。

今までは「教わる教育」でしたが、これからの教育は「学び方を学ぶ」ことに変化してきています。将来、社会に出たときにどうしたらいいのかわからないという思いを持つのではなく、どうすればいいかを自分で判断し、そのために必要な情報を自分で集め、整理する。そのような児童生徒の将来のために、日本の教育、そして西脇市の教育は、大きな転換点を迎えています。

(3) 改修工事について

学校施設に関する基本的な考え方として、第4期西脇市教育振興

基本計画では、施設に関連する整備の項目として「安全・安心で、質の高い教育環境の整備」を掲げています。この考え方をもとに、両校の現状、築年数、規模を踏まえると、図5に示したものが改修の基本的な方針になります。

まず、西脇東中学校は、校舎が30年を経過しており、外壁等が一部劣化しています。また、全6学級を想定した建物であり、統合後に6学級で使う場合、少人数用教室の不足や、職員室が手狭になるという問題があります。以上を踏まえ、西脇東中学校の改修の基本方針は、増築によるスペース不足の解消と一部劣化への対応となります。

次に黒田庄中学校は、校舎や体育館など施設全体が築40年を経過しており、外壁や屋上防水等が劣化しています。また、設備の一部にも劣化があるほか、統合後は職員室等が手狭になることが想定されます。以上を踏まえ、黒田庄中学校の改修の基本方針は、全般的な経年劣化への対応となります。

各々の改修内容1つ1つに費用差はありますが、どちらの校舎を改修した場合であっても、現時点の想定として約4億8千万円程度の費用が見込まれます。

【図5】 改修の基本的な方針（案）

基本的な考え方(教育振興基本計画) 【重点目標】教育施策推進のための体制・環境の整備・充実 安全・安心で質の高い教育環境の整備	
基本的な考え方と両校の現状(築年数・規模等)を踏まえた改修の方針(両校の相違点) 西脇東中学校 ・校舎は築30年を経過し、外壁等に一部劣化等がみられる。 ・全6学級編成を想定した建物であり、統合後、少人数用の教室が不足、職員室等が手狭になる。 【改修の基本方針】 →増築による スペース不足の解消 ・一部の劣化への対応	
黒田庄中学校 ・校舎をはじめ、施設全体が築40年を経過し、外壁、屋上防水等に劣化等がみられる(修繕が頻発)。 ・一部設備の劣化がみられるほか、統合後、職員室等が手狭になる。 【改修の基本方針】 →全般的な 経年劣化への対応	
西脇東中学校 【想定改修例】スペース不足解消 ・校舎外壁劣化への対応 ・少人数学習用教室等の増築 ・トイレ改修(乾式化・洋便化) ・職員室増築 ・駐輪場等増設 ・外構等改修 <small>ほか</small>	黒田庄中学校 【想定改修例】経年劣化対応 ・校舎屋根・外壁劣化への対応 ・体育館・柔剣道場外壁劣化への対応 ・体育館屋根劣化への対応 ・職員室増築 ・外構等改修 <small>ほか</small>
上記の改修工事を実施した場合の概算工事費(想定) どちらの想定改修例であっても約4億8千万円程度が見込まれます。 <small>※設計を経て算出した工事費ではありません。設計時の詳細検討により増減します。 ※統合校として10年超の使用を想定した場合の想定であり、統合によって閉校する場合、改修方針は上記とは異なるものとなります。</small>	

(4) 統合後の通学について

学校区の統合により、通学方法に変更が生じる生徒に対して、図6のように通学時間または通学距離が基準を上回る場合に、通学支援を行います。支援の方法は、無料のスクールバス、または公共交通機関(JR)の定期券購入費補助等による無償化を想定しています。なお、どちらを選択しても自転車の併用は可能です。

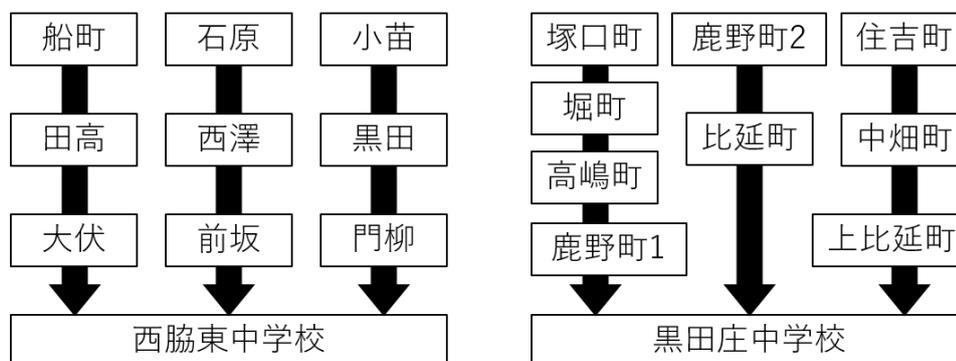
スクールバスを活用する場合の運行ルート(案)を図7に示します。どちらも3ルート(3台運行)を想定し、コース例を示してい

ます。所要時間は乗車時間も含め最大で40分程度になることを想定しています。

【図6】 通学支援の内容（案）

<p>(1) 通学支援対象者（想定案）</p> <p>学校区の統合により、<u>通学方法に変更が生じる生徒</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通学時間の基準・・・概ね片道1時間超 ● 通学距離の基準・・・概ね6キロ超（中学生）<small>（※国の基準参考）</small>
<p>(2) 支援方法（想定案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>無料</u>のスクールバスによる支援 ○ 通学に使用する公共交通機関の運賃の<u>無償化</u>（定期券購入費補助等） <p>※支援対象者1人につきいずれかの支援を想定（自転車との併用は可能）</p>

【図7】 スクールバス運行ルート（案）



※通学支援や運行ルート等の詳細につきましては、開校準備会議を設置し、地域の方々との協議等を踏まえて教育委員会で決定します。

(5) 部活動について

部活動は、現在の「学校が主体となって行う活動」から、「地域が主体となって行う活動」へ移行していきます。西脇市が掲げる地域クラブ活動の最終運営（案）は図8の通りです。

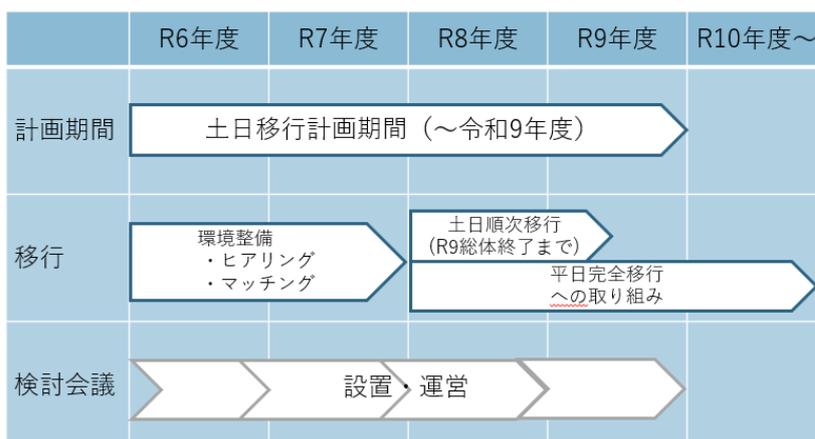
【図8】 地域クラブ活動最終運営（案）

地域クラブ活動	
運営主体	地域の登録団体 総合型スポーツクラブ等
指導者	地域の指導者 希望する教員
参加者	校区の枠にとらわれない設定
活動場所	学校施設・地域の諸施設
費用負担	受益者負担
保険	スポーツ安全保険

地域クラブ活動へ移行した場合の大きな変更点は、校区の枠がなくなることで、他校の生徒と一緒に活動することが可能性となり、中学校以外の世代間での交流も生まれることが考えられます。また、活動場所については、学外の施設となることも想定され、費用負担は受益者負担となることを検討しています。

西脇市にふさわしい地域クラブ活動の運営方法を検討するための会議（西脇市部活動地域移行検討会議）を今年度立ち上げています。委員として、学校の代表者や各団体の代表者、保護者、有識者等に参加いただき、検討を進めています。その会議で示されたスケジュール（案）は図9の通りです。令和6年度、7年度にヒアリングやマッチングを行い、令和8年度から順次移行を開始します。令和9年度の総合体育大会終了後に土日の部活動の地域への移行を計画しています。

【図9】 地域クラブ活動移行スケジュール（案）



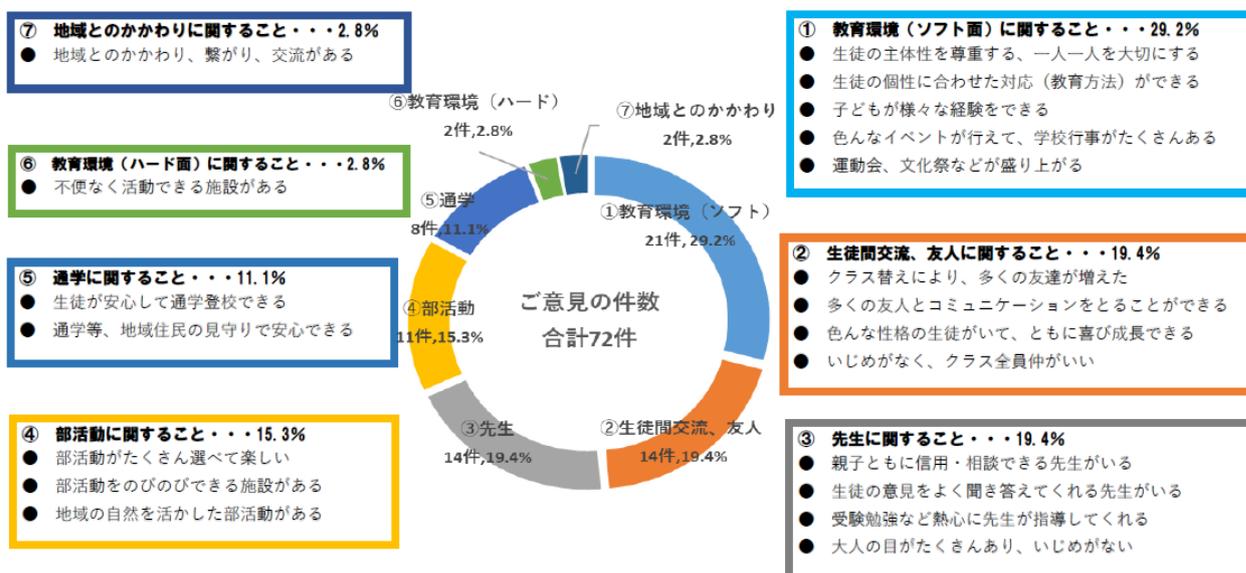
3 目標と両校の現状確認

子どもの良好な教育環境の実現に向けて、目標となる学校のイメージや現状等を理解するため、グループワークや視察等を行いました。

(1) 目標とする「いい学校」とは

統合懇談会の第1回目に、子どもにとっていい学校とはどんな学校かを話し合うグループワークを行いました。その結果は図10の通りです。

【図10】 第1回グループワーク意見集計



グループワークの意見は、大まかに7つの区分に分けることができ、①教育環境（ソフト面）に関すること（29.2%）、②生徒間交流、友人に関すること（19.4%）、③先生に関すること（19.4%）、④部活動に関すること（15.3%）、⑤通学に関すること（11.1%）、⑥教育環境（ハード面）に関すること（2.8%）、⑦地域とのかかわりに関すること（2.8%）となっています。

グループワークの意見を集約すると、「いい学校」とは、生徒の主体性を尊重し、様々なイベントなどで多くの友達と盛り上がることができ、信頼できる先生が熱心に指導してくれ、伸び伸びと部活動ができて、通学が安全な学校と言えます。この「いい学校」が統合懇談会の考える統合後の目標として、委員の共通認識となりました。

なお、施設などハード面に関することが全体の2.8%で、「いい学校」の中での優先順位は低いという結果になりました。

(2) 他市中学校視察

統合懇談会の第2回目に、統合後の学校規模が同程度となる小野市立小野南中学校を視察し、学校の現状や小中一貫教育の状況などを確認しました。1年生は音楽の授業で合唱を30人程の人数で行っており、2年生は数学を習熟度別（15人程度の少人数）で行い、3年生は学年全体で修学旅行の事前学習を行っていました。

音楽の授業では、30人程の声揃うことの良さ、数学の習熟度別授業では、少人数で同程度の理解度の子がその子たちのペースで授業を受けている様子、修学旅行の事前学習では、各グループに分かれて学習課題を出し全体に共有するという様子を見ました。

特に3年生の事前学習では、1つの事柄を多くの側面から考えて共有するという、人数が多いからこそできる学習スタイルを見学することができました。その後、小野市の小中一貫教育の現状や長寿命化工事を行う前と後の学校の差などを校長等から説明を受け、最後に部活動を見学しました。

【写真2】 小野市立小野南中学校視察の様子



(3) 両校の現状確認

自分が通った中学校はよく知っているが、もう一方の中学校は見たことがないという委員が多く、統合懇談会の第3回目は、西脇東中学校と黒田庄中学校の施設見学を行いました。

両校長の施設案内により、生徒が実際に使用している教室やトイレなどの諸室のほか、机、実験器具などの備品等を見学し、教室の広さや明るさ、学校の規模感などについて、直接両校を確認しました。

【写真3】 西脇東中学校見学の様子



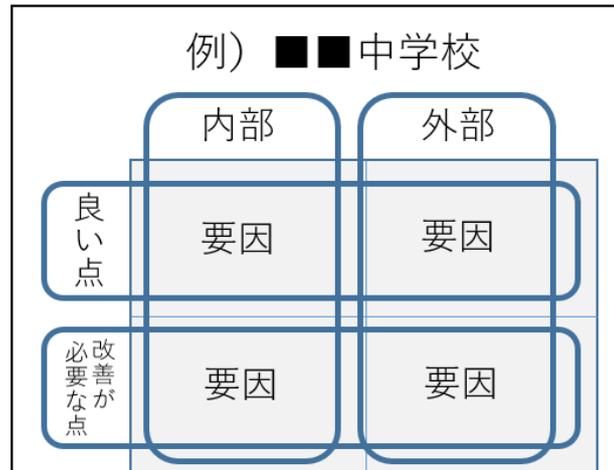
【写真4】 黒田庄中学校見学の様子



4 重要要因の整理

実際に見学した両校の現状を全員で共有できるよう整理し、見える化を行いました。整理は、図11のように学校の敷地内部、敷地外部における良い点、改善が必要な点の4つに分けて、個人で各項目の要因と理由を考えたのち、グループ内で意見交換を行いました。

【図11】 要因整理



(1) 西脇東中学校の良い点・改善が必要な点の整理

西脇東中学校の良い点・改善が必要な点についてグループワークを行い、学校の敷地内、敷地外に分けて要因を抽出したのち、良い点については順位付けを行いました。その結果は図12の通りです。

学校敷地内の良い点で最も重要視されたのが「校舎や教室などが明るい」点で、「自然光が入り照明の明るさ以上のものがある」、「前向きな姿勢で学習に対しても交友関係にも良い影響があるのでは」などの理由が挙げられました。以下、「体育館が新しくきれい」、「教室外の廊下にスペースがある」と続いています。

また、学校敷地外の良い点で最も重要視されたのが「地域の見守り活動」で、以下「地元企業が多い」、「城山公園が近い」と続きました。

【図12】 西脇東中学校の要因整理

西脇東中学校

学校敷地内

学校敷地外

良い点	総合順位	良い点	総合順位
校舎や教室などが明るい ・自然光が入り、照明の明るさ以上のものがある ・前向きな姿勢で学習に対しても交友関係にも良い影響があるのでは ・子ども達が気持ちよく生活を送ることができる ・目に優しく気分が良くなる ・学習環境としても精神的にも良い など	1	地域の見守り活動 ・地域の見守り活動が熱心 ・住宅街にあり人目につきやすい ・自治会とのつながりが強い	1
体育館が新しくきれい ・子ども達が安全に利用できる ・体育館が広ければ子どもが学習するうえで良い環境であると考えたため ・けがのリスクを下げられる ・子ども達が「大事に設備を使用する」という意識が強くなる ・設備安全・衛生の観点から	2	地元企業が多い ・トライやるウィークなどに協力してくれる ・進出企業が多く連携協力を得られるのでは ・周囲に会社が多い ・老人ホームオンベリーコがある ・㈱玉木新産がある	2
教室外の廊下にスペースがある ・解放感がある方が授業の息抜きができる ・生徒の憩いの場 ・広い方が安全面で良い	3	城山公園が近い ・学校行事で使える ・山登りやトレーニングができる ・大きなグラウンドがある	3
校舎や備品、設備が良い ・物がきれいであると大切に心が生まれる ・学習に関しても積極的に取り組める(いじめもないのでは)	4	自治活動が活発 ・地域の自治活動が活発	4
教室の壁が可動式 ・教育内容によって変更でき、環境も整理できる ・集中して学習できる ・コロナ時の開放教室等状況に応じて対応できる など	5	ゴルフ場が近い ・ゴルフ部をやりたい子がいらてできる	5
多目的ホールがある ・学年集会用に使用したり、コミュニケーションの場として活用できる	5 ※同率	青年の家が近い ・クラブの合宿、野外活動として使える	5 ※同率
		へそ公園が近い ・プラネタリウムなど野外活動・校外活動ができる	5 ※同率

改善が必要な点	
・特別教室が少ない ・図書室・保健室などが狭い ・校舎・体育館が狭い ・普通教室が狭い ・グラウンドが狭い ・教室数が少ない	・駐輪場の改善 ・プールの改善 ・トイレの改善 ・駐車場の改善 ・配膳室の改善

改善が必要な点	
・校門前の道(通学路)が狭い ・近くの道路が狭く車が通り抜けることが多い ・駅までの距離が遠い ・地域に内科の個人病院がない ・スーパーが近くにない	

※広い、狭いなど黒田庄中学校と比較した意見が含まれていると見込まれます。なお、意見内容と客観的な情報等が異なるものについては、第6回、第7回の懇談会において補足説明を実施しています。

(2) 黒田庄中学校の良い点・改善が必要な点の整理

次に、黒田庄中学校の良い点・改善が必要な点についてグループワークを行い、学校の敷地内、敷地外に分けて要因を抽出したのち、良い点については順位付けを行いました。その結果は図13の通りです。

学校敷地内の良い点で最も重要視されたのが「校舎、体育館が広い」点で、「スペースがあると多目的に利用できる」、「心にゆと

りが持てる」などの理由が挙げられました。以下、「トイレがきれい」、「グラウンドが広い」と続いています。

学校敷地外の良い点で最も重要視されたのが「通学路の安全」で、以下「JRの駅（本黒田駅）が近い」、「地域の見守り活動」と続きました。

【図13】 黒田庄中学校の要因整理

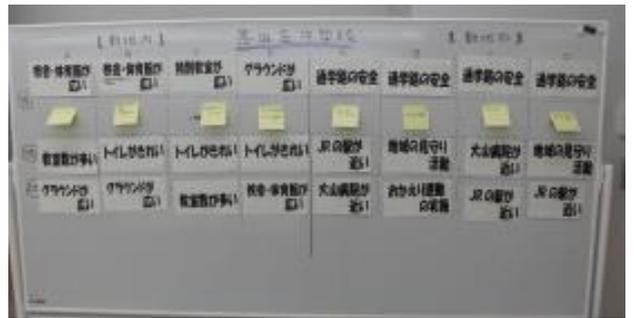
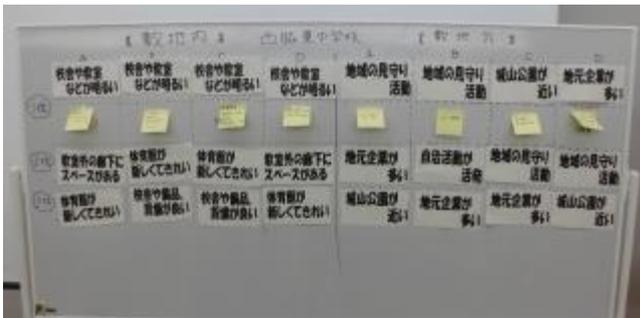
学校敷地内		学校敷地外	
黒田庄中学校			
良い点	総合順位	良い点	総合順位
校舎、体育館が広い ・スペースがあると多目的に利用できる ・心にゆとりが持てる ・広いところで過ごす圧迫感がない	1	通学路の安全 ・通学路の安全が一番 ・周辺道路が整備されていて広くて走りやすい ・通学路が整備されていて安心安全 ・親も子どもも安心してできる	1
トイレがきれい ・気分よく、気持ちよく利用できる ・きれいなトイレ環境が望ましい ・女子は生理が始まる時期なのできれいな方が安心	2	JRの駅（本黒田駅）が近い ・通学の利便性 ・夜間の移動もスムーズで危険が少ない	2
グラウンドが広い ・多くの部活ができる ・他の部活とのコミュニケーションが取れる ・部活・行事等の幅が広がる ・広い場所で活動ができ、特に球技でけがをしにくい ・校舎外に避難する際に広くスペースが取れる	3	地域の見守り活動 ・地域住民が見守るよう働きかけており安心 ・地域力が強そう	2 ※同率
教室数が多い ・少人数授業だけでなく、別室登校など必要に応じて利用できる ・学力別のカリキュラムにも対応できる ・必要な生徒には別室がすぐく大きな場所になる	4	大山病院が近い ・休日救急医療に対応 ・なにかあったとき救急医療に対応できる	4
特別教室が広い ・専門教科として広く学びやすい ・興味の幅が広がる ・窮屈な中で勉強するよりも距離をとれる環境の方がゆったり過ごせる	5	おかえり運動の実施 ・犯罪の抑制（子どもの安全面） ・地域との交流	5
その他 普通教室が広い、駐車場・駐輪場が広い プールの設備が充実、図書室が広い		黒田庄グラウンドが近い ・スポーツクラブの練習を広げることができる ・外活動に使える	6
改善が必要な点		改善が必要な点	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に暗い ・校舎が古く、劣化している ・体育館の雨漏りなどの改善 ・備品、設備が古い ・校舎構造の改善 		<ul style="list-style-type: none"> ・山・川が近く増水などの災害面が心配 ・通学路が狭い場所がある ・県道を抜け道にしている車がいる ・周囲に会社が少ない ・スーパーが近くななく、市役所も遠い 	

※広い、狭いなど西脇東中学校と比較した意見が含まれていると見込まれます。なお、意見内容と客観的な情報等が異なるものについては、第6回、第7回の懇談会において補足説明を実施しています。

【写真5】 グループワークの様子1



【写真6】 グループから出た意見



5 フリーディスカッション

統合懇談会の第1回目にいい学校について話し合い、それを背景に学校の敷地内、敷地外に分けて両校の良い点、改善が必要な点を出しましたが、これまでに意見交換できていない観点のうち、施設決定や教育環境に影響や効果を与える観点についてフリーディスカッションを実施しました。

統合懇談会の第6回目にフリーディスカッションのテーマ選定、第7回目に選定したテーマから各グループでテーマを選んでフリーディスカッションを行いました。

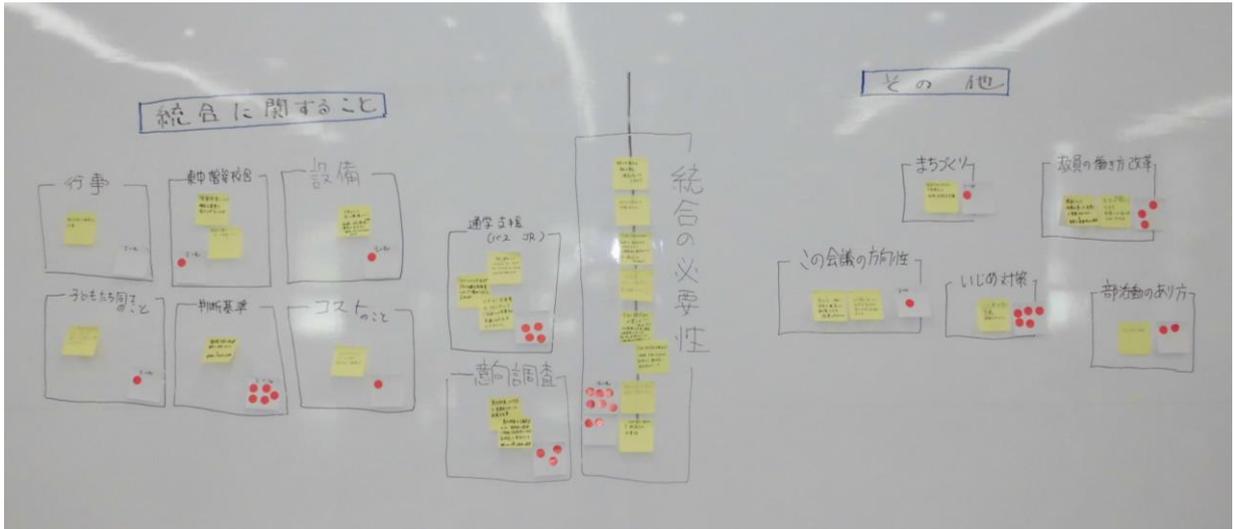
テーマ選定については、各委員が考えた意見を付箋で壁に貼り、事務局が似た意見をテーマごとに分類し、賛同できるテーマにシールを貼っていただきました。

主に3つに分類でき、「西脇東中学校・黒田庄中学校の統合について」「統合自体について」「その他」としました。委員が最も多く賛同したテーマは「統合の必要性（2拠点化含む）」となり、以下、「判断基準」「いじめ対策」と続きました。詳細は図14の通りです。

【図14】 フリーディスカッションテーマ

	意見	テーマ	シール数	参考資料（懇談会事務局説明資料）
西脇東中学校・黒田庄中学校の統合について	生徒にとって良い教育環境とは	子どもたちにとって良い教育環境とは	1	第4回 資料1グループワークまとめ
	統合校へ継承したい行事	行事	0	第6回 参考資料2-2学校の行事予定
	増築校舎は現在の教室と変わりないか	東中増築校舎	1	第6回 資料3補足 第7回 資料3-1再確認事項
	プレハブ校舎について			
	風土の違う子ども達を一緒にするべきか	子どもたち同士のこと	1	第6回 参考資料2-3合同自然学校アンケート
	判断基準を明示⇒理解と納得が重要	判断基準	5	第4回 資料5統合懇談会後の流れ 第7回 資料2活用施設の決定手順に係る考え方
	バス・JR・送迎なのか、どのような計画か			
	JRの本数を増やせるのか	通学支援	4	第5回 資料1通学に関する説明【東中・黒中】 第7回 資料3-1再確認事項
	JRがストップした場合の交通手段			
	コストを抑えるためにできること	コストのこと	1	第6回 資料2統合に係るコストについて
意向調査は懇談会メンバーの承認が必要				
懇談会の総括と調査の説明会を実施し、住民へ丁寧な説明を	意向調査	3	第6回 資料6意向調査について 第7回 資料1意向調査について	
統合自体について	そもそも統合は必要なのか	統合の必要性 (2拠点化含む)	8	第1回 資料2統合懇談会について 第7回 資料3-1再確認事項
	西脇中学校との統合を早める検討は			
	今すぐ統合する必要があるか。2校化の話し合いが不十分では			
	10年間待って西脇中学校との統合案を勉強したが3拠点化の必要性			
	統合しない、少人数の教育はだめなのか			
その他	今すぐ統合する必要があるか。2校化を前倒しして新校舎に			
	西脇中学校に統合ではだめなのか。2校化を前倒しは			
	市民の多くが納得できる結果になるのか	この会議の方向性	1	第4回 資料5統合懇談会後の流れ 第7回 資料2活用施設の決定手順に係る考え方
	この話し合いが無駄になったと思うことのないように	まちづくり	1	—
	統合された中学校区の地域活性化支援	教員の働き方改革	3	—
	先生に心のゆとりができて生徒への気配りができる			
	教員にとっての両校の良い点、改善点の整理	いじめ対策	5	—
新しく作りたい部活	部活のあり方	2	第6回 資料1部活動について	
	合計		36	

【写真7】 フリーディスカッションテーマ一覧



出されたテーマのうち、「西脇東中学校・黒田庄中学校の統合について」の中から1つ、それ以外（自由設定）から1つ、各グループでテーマを選び、グループ内でディスカッションを行いました。

(1) テーマ1 西脇東中学校・黒田庄中学校の統合について

各グループが「西脇東中学校・黒田庄中学校の統合について」の中から選んだテーマとそのテーマに対する意見は図15の通りです。

【図15】 各グループからテーマ1に沿って出された意見

グループ	グループテーマ	意向調査
Aグループ	グループ内意見	住民の方が本当に内容、現実を理解されているのか？ 例えば東中になった場合、プレハブ校舎が増築されるが、プレハブ校舎がどのような建物か理解されているのか。 誤った内容を正して、説明会をしっかりとやる。 調査の目的や資料内容を説明 丁寧な説明が大切であり、それが統合を成功させる。 統合の必要性、設備の改善等正確な情報の説明が必要
	個人意見	間違った情報、認識のまだだと反論し出ない。これを払拭できる説明が必要 住民に懇談会で出た内容を紙だけでなく、場を設け意見を聞いてもらって懇談会で出た意見を参考に貰ってもらえれば。 正しい内容を理解しないと判断できない。 4億数千円の改修工事のお金をかけてからの判断なのか。ということの説明もしっかりした方がよい。
Bグループ	グループ内意見	決定前にせめて保護者には説明会をするべき。決まってから結果発表だけでは新たな火種を作るだけ。 内容が全く広がっていない。 説明会がないと後で再燃する。 懇談会の内容や動きを他の人に説明する。伝書鳩ではなく一般市民として参加に。 小規模校でもよいところはある。 生徒、保護者向けの説明会が必要ではないか。 懇談会を行っていることさえ知らない人が多い。
	個人意見	全市的な教育施策、行政施策上の評価とは何か。もう決まってることなのでは？しっかりとした説明を。 説明会は必要だと思う。 進め方も今後についても、もっと意見を聞くべきだと思う。良かれと思って進められているやり方が参加者住民を置いていっているように感じる。 なかなか地域の人に説明しても納得してもらえない（自分も納得していないから）。 子どもにとって良い教育環境とは-教師側の教育しやすい環境が大切 冷静に考え一番納得できる結果を期待します。 懇談会での内容を出席しているメンバーに保護者や地域住民に広めろというのは無理がある。保護者層が理解した上で意向調査を行うべき。
Cグループ	グループテーマ	判断基準の明示
	個人意見	合理的な基準で決定してほしい。 判断基準の明示 事業（校舎）改修費と、意向調査の含意性 前回までは黒中は日照時間を出され、東中を選んだと説明会で話されたが、この懇談会では一言もでていない。前回までの判断基準はなんだったのか？信じられないので明確にしてほしい。 前回の説明会（黒田庄地区）があいまいな説明会だったので、ある程度の理解と納得をしてほしい。 判断基準の重要性によって、アンケート回答で、恣意的な回答も出てくるのでは。 地域意向調査の内容文章を読みやすく、わかりやすい表現に。 グループで黒田庄地区の方が多く、黒田庄として譲れない部分が残っている。 合理的に納得できるような判断基準にしてほしい。 意向調査のアンケートを見ても、この項目に○をつけると東中、この項目だと黒中というのわかる項目があり、多数決ではないが、はっきりとどちらが良いか説明に入れてはどうか。
Dグループ	グループテーマ	意向調査
	個人意見	この会の進めとどころがわからない。 回答を重ねて説明した方がよい。1回だけの説明では熱量が伝わらない。 保護者の熱量が足りない。 丁寧な説明が必要 住民へ何度も説明した方がよい。 保護者の認知度、熱量がないとしたら、説明をし、訴えかけてもよくなるない。 合併に反対の人に対して、子どもたちにとって、1クラスより2クラスの方が大事だという教育者（専門家）の話を素直に受け取れない人に説明のしようがないと思う。 周囲の人は統合についてあまり実感がなく関心もあまりない。 素感や関心がないので意向調査だけでは理解は得られないのではないかと思います。 統合に向けた本気度や熱量を含め何度も住民へ説明してほしい。そうしないと調査の結果を見た人がまた反発し話がまとまらないのではないかと。

選ばれたテーマは2つあり、「意向調査」と「判断基準」についてでした。「意向調査」については、主に意向調査を行う前に事前に説明会をするべきではないのかという意見、「判断基準」については主に判断基準を事前に明示し、納得できる説明をしてほしいという意見でした。これに対して、事務局からは下記の通りの説明をしています。

ア 地域意向調査前の説明会について事務局からの説明

地域意向調査には資料編・Q & A編といった説明資料を同封するほか、統合懇談会の取組等をまとめた資料を両地区に全戸配布するとともに、市ホームページに資料や、説明の動画を公開するなど、広く周知を行っていきます。

イ 判断基準について事務局からの説明

教育委員会の場において、両校を同じ視点で評価・検討し、総合的な判断により決定します。基準を事前に示すべきとのご意見ですが、教育委員会は合議制で議論を進めていく場ですので、評価の基準や評価ウエイトなどもその議論の対象になることが想定されるため、事前提示は困難です。

なお、教育委員会は市民の方々に、活用施設を決定する判断要因も含めて、透明性の確保に努めます。

(2) テーマ2 自由設定

テーマ2は各グループでテーマを自由に設定していただきました。各グループが選んだテーマとそれに対する意見は図16の通りです。

【図16】 各グループからテーマ2に沿って出された意見

グループテーマ	統合の必要性（2拠点化含む）	グループテーマ	統合の必要性（2拠点化含む）
A グループ	グループ内意見	B グループ	グループ内意見
	個人意見		個人意見
C グループ	グループ内意見	D グループ	グループ内意見
	個人意見		個人意見

選ばれたテーマは各グループ共通で「統合の必要性（2拠点化踏むむ）」についてでした。主な意見の内容は、10年後に1つのクラスになるのなら2拠点化を前倒ししてはどうか、母校が10年後になくなる子どもはどう感じるのか、などの意見でした。これに対して、事務局からは下記の通り説明をしています。

統合の必要性についての事務局からの説明

①～③の理由から、まずは西脇東中学校と黒田庄中学校を統合し、現状の問題解決を図ることを優先します。

- ① すでに全学年1学級であったり、近い将来に1学級となるなど西脇東中学校と黒田庄中学校では小規模化が進行しており、市内で教育環境の均等を図ることが難しい状況であること。
- ② 市内の年少人口の減少が著しく、生徒数の推移等の予測が困難な状況であり、2拠点化する場合の学校規模等を見通すためには、あと数年は推移を確認していく必要があること。
- ③ 新校舎を建てる場合、統合中学校の位置決定や用地選定、設計・工事等財源確保など、準備から完成まで長期にわたること。

【写真8】 テーマ出しの様子



6 各回のアンケート結果

統合懇談会の第5回から第7回目までに実施したアンケート結果の一部を掲載します。特に第5回、第6回は敷地内要因、敷地外要因から重要な要因を選んでもらった上で、どちらの学校を活用することが適しているかを尋ねています。

(1) 第5回統合懇談会アンケート

比延地区：10人（45%） 黒田庄地区：12人（55%）

参加者 22人/32人中 有効回答 20件

Q. 学校敷地内で重要だと思う要因を考えた場合、どちらの校舎を活用することが適していると思われますか。

	件数	割合
西脇東中活用	3	15%
黒田庄中活用	7	35%
どちらともいえない	9	45%
無回答	1	5%

第5回目のアンケートで、西脇東中学校と答えた委員が15%、黒田庄中学校と答えた委員が35%で、残りの半数の方はどちらともいえない、または無回答でした。

(2) 第6回統合懇談会アンケート

比延地区：5人（36%） 黒田庄地区：9人（64%）

参加者 14人/32人中 有効回答 14件

Q. 学校敷地外で重要だと思う要因を考えた場合、どちらの校舎を活用することが適していると思われますか。

	件数	割合
西脇東中活用	2	14%
黒田庄中活用	7	50%
どちらともいえない	3	22%
無回答	2	14%

第6回目のアンケートで、西脇東中学校と答えた委員が14%、黒田庄中学校と答えた委員が50%で、残りの方はどちらともいえない、または無回答でした。回答結果については、地区で出席の委員人数が異なること、また出席割合が低いことに留意が必要です。

(3) 第7回統合懇談会アンケート

比延地区：5人（31％） 黒田庄地区：11人（69％）

参加者16人/32人中 有効回答16件

Q. 統合懇談会を通して両校の良さについて理解できましたか。

	件数	割合
理解できた	8	50%
理解できなかった	0	0%
どちらともいえない	4	25%
無回答	4	25%

Q. 統合懇談会の協議結果が統合を決める際の考え方に反映されることについて賛同できますか。

	件数	割合
賛同する	7	43%
賛同できない	3	19%
どちらともいえない	0	0%
無回答	6	38%

第7回目のアンケートでは、統合懇談会を通して、意見交換を進めてきた両校の良さについて尋ねました。半数の方が理解できたを選んでおり、理解できなかったと答えた方はいませんでした。

また、統合懇談会の協議結果が統合を決める際の考え方に反映されることについて、43%が賛同、38%が無回答、残り19%が賛同できないとの結果になりました。賛同できないことに対する意見として、協議結果がどのように反映されるか見えない、対話が不十分、判断基準が曖昧なままではいけないといった意見がありました。

7 おわりに

この統合懇談会では、どちらの学校施設を使用するか意思決定はしないことを前提にした上で、懇談会の終了時には委員全員が両校の良い点について、理解を深めていただくことを目標の1つとして開催しました。

成果物として出来上がった資料等を見ると両校の良い点が理由を添えて挙げられています。

また、委員においては、両校の機能面を考える過程や意見交換を進めていく中で、両校の良さについて、改めて確認していただきました。

最終回となる第7回懇談会では、浅野委員長から「令和9年度に統合した後は、どちらかの中学校を10年間は利用することになる。10年間とは言っても、そこで3年間は過ごすことになる中学生たちにとっては、そこが母校となり、それが全てとなる。どちらの学校を使うことになっても皆さん方から出た意見は、良い学校を作っていくための意見となり、今回のことを、学校と地域住民とのコミュニケーションをより深めるきっかけにしていきたい。」という御助言をいただきました。この統合懇談会を、地域住民と保護者、学校関係者が話し合う第一歩とし、統合する2つの学校区の協力体制を構築していきます。

今後、統合校となる新しい中学校をどのように良くしていくか、生徒がどのように多くの経験を積み、大きく変化していく社会に適応できる大人に成長していくか、保護者や地域の皆様と共に考えて参りますので、ご支援、ご協力お願い申し上げます。